

平成30年度

# 芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

# 目次



## 芸術文化振興基金助成事業

### 助成対象者インタビュー

一般社団法人 京都バレエ団

### 舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**  
千葉交響楽団定期演奏会  
公益財団法人 千葉交響楽団
- 2 舞踊**  
篠原聖一バレエ・リサイタル DANCE for Life 2018  
DANCE for Life 実行委員会
- 3 演劇**  
iaku 演劇作品集  
iaku
- 4 伝統芸能の公開活動**  
代々木果迺会平成 30 年度記念公演付き定例公演  
代々木果迺会
- 5 美術の創造普及活動**  
アートアイランズ TOKYO2018  
第 8 回 国際現代美術展  
東京の島々を結ぶアート航路開発委員会
- 6 多分野共同等芸術創造活動**  
舞禪  
鉄秀

### 国内映画祭等の活動

- 7 国内映画祭**  
第 43 回湯布院映画祭  
湯布院映画祭実行委員会
- 8 日本映画上映活動**  
ISHINOMAKI 金曜映画館  
特集「愛と希望の映画たち」  
ISHINOMAKI 金曜映画館運営委員会

### 地域の文化振興等の活動

- 9 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演）**  
第 27 回みつなかオペラ プッチーニ：歌劇「トスカ」  
公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団（川西市みつなかホール）
- 10 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）**  
「工芸の教科書」  
栃木県（栃木県立美術館）
- 11 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**  
海野宿重要伝統的建造物群保存地区  
「伝統的建造物群等保存の記録Ⅲ」作成活動  
東御市
- 12 民俗文化財の保存活用活動**  
市制施行 60 周年記念 郷土芸能フェスティバル  
西之表市
- 13 アマチュア等の文化団体活動**  
いちかわ市民ミュージカル第 9 回公演  
いちかわ市民ミュージカル実行委員会
- 14 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動**  
日本の伝統美と技の世界  
—重要無形文化財保持団体秀作展—  
全国重要無形文化財保持団体協議会



# 文化芸術振興費補助金助成事業

## 舞台芸術創造活動活性化事業

- |    |                                |            |                        |
|----|--------------------------------|------------|------------------------|
| 15 | 音楽<br>定期演奏会                    | みなとみらいシリーズ | 公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 |
| 16 | 舞踊<br>コンドルズ                    | 東京公演       | ROCKSTAR 有限会社          |
| 17 | 演劇<br>創立 70 周年記念公演 Vol.3 「どろろ」 |            | 有限会社 ひとみ座              |
| 18 | 伝統芸能<br>山本会別会                  |            | 合同会社 大蔵流狂言山本事務所        |
| 19 | 大衆芸能<br>漫才大行進                  |            | 一般社団法人 漫才協会            |

## 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- |    |  |  |                           |
|----|--|--|---------------------------|
| 20 | 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業<br>まち元気プロジェクト              |  | 公益財団法人 可児市文化芸術振興財団        |
| 21 | 共同制作支援事業<br>共同制作オペラ モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」(新演出) |  | 東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団) |
| 22 | 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業<br>ONEOR8 「ゼブラ」           |  | あさひサンライズホール               |

## 映画製作への支援

- |    |                            |  |                   |
|----|----------------------------|--|-------------------|
| 23 | 劇映画 特別<br>万引き家族            |  | 株式会社 フジテレビジョン     |
| 24 | 劇映画 A<br>夜明け               |  | 株式会社 バンダイナムコアーツ   |
| 25 | 記録映画<br>百年の蔵               |  | 株式会社 ヴィジュアルフォークロア |
| 26 | アニメーション映画<br>バースデー・ワンダーランド |  | 株式会社 シグナル・エムディ    |

参考 芸術文化振興基金による助成

文化芸術振興費補助金による助成

文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

## フランスバレエの伝統を伝え 失われつつあるバレエを繋いでいく

助成金を利用したことがない人にとって、不安なことは多いと思います。そこで、2018年度の芸術文化振興基金助成事業に応募し、舞台芸術等の創造普及活動・現代舞台芸術創造普及活動（舞踊）の助成を受けた一般社団法人京都バレエ団の有馬えり子さんに、助成制度を活用した体験と団体の活動について語っていただきました。

一般社団法人 京都バレエ団

助成金額 2,912千円

### プロフィール

有馬えり子（ありま・えりこ）：一般社団法人京都バレエ団代表理事。学校法人京都バレエ・京都バレエ専門学校校長、有馬バレエ代表も務める。京都府あげぼの賞、京都市芸術振興賞受賞。また2017年、フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ受章。

### 活動概要

1955年、有馬龍子バレエ団を設立。76年には京都バレエ専門学校を設立。フランス国立パリ・オペラ座バレエ団との交流が深く、クラシック・バレエ発祥の地パリ・オペラ座の技術を習得することを、全国の若い世代の目標とする。フランスの古典バレエのほか、コンテンポラリー作品、日本の創作バレエも上演。2012年より一般社団法人となり、より公共性の高い活動を行うため、13年に京都バレエ団と改名した。

〒606-8267 京都府京都市左京区北白川西町73  
Tel: 075-701-6026  
URL: <http://www.kyoto-ballet-academy.com/>



▲有馬えり子さん

### 助成実績

助成対象となったのは、京都・パリ姉妹都市提携60周年を記念して行われた「トリプル・ビル“LE RÉVE”“パキータ第2幕より”“ラ・バヤデー第2幕より”」。“LE RÉVE”は1890年、浮世絵の移入やパリ万博の影響でジャポネズリ（日本趣味）が大流行していた時代に初演され、幻となっていた作品をパリ・オペラ座の協力を得て復元した。ファブリス・ブルジョワ氏が振付を、ピアニストのミッシェル・ディエトラン氏が楽譜を復刻し、世界初演。“パキータ”はパリ・オペラ座の巨匠ピエール・ラコット振付によるフランス・スタイル、“ラ・バヤデー第2幕”はファブリス・ブルジョワによる再振付で上演。出演はパリ・オペラ座のオニール八菜、カール・パケットのほか、京都バレエ団など日本人ダンサーで構成。2018年7月27日、ロームシアター京都 メインホールにて1回公演。

### 申請から助成決定

#### ▶「本物」に触れる機会を創出

—— 助成を受けようと思った理由を教えてください。

**有馬** バレエの本場、フランスの伝統を汲む質の高い公演を京都でお見せしたいという思いから長年活動を続けていますが、振付から美術、衣裳まで本物志向の作品を創るには、どうしても予算がかかってしまいます。そこで、ここ数十年、日本芸術文化振興会の助成対象活動募集に応募し、助成金をいただいております。私共のバレエの芸術性を認めて協賛金などで応援してくださいる方もいらっしゃると思いますが、やはり助成をいた

だけると大変助かります。

—— フランスのバレエを中心に据える訳とは？

**有馬** 日本ではバレエはロシア発祥だと思われがちですが、クラシック・バレエはもともとフランスのルイ14世が始めたものです。バレエ用語は世界中どこへ行ってもフランス語ですよ。ポジションも動作も、300年経ってなお今に生きているのはフランスバレエの伝統なんです。手の動きやお辞儀の仕方、細かい裾さばきまで、その基本が宿っているのがパリ・オペラ座です。私たちは長年パリ・オペラ座と交流関係を築いていまして、ゲストダンサーや振付家を迎えるだけでなく、オペラ座バレエ学校で教えている現役の先生にも毎年講師として来ていただいております。

—— 助成の申請にあたってご苦労はありましたか。

**有馬** 当初は、振興会の方から「あなたのところの公演は海外ゲストばかり出ている」と言われました。助成に値するかどうか疑問に思われたのでしょうか。でも私もでは学校法人の資格も取得し、お金は少なくとも本物のバレエを学びたいという、日本全国から来る生徒さんをお預かりしています。そうした子供たちや、京都のお客様がパリや東京まで行かずとも「本物」に触れられる機会を作りたいんです、と必死に説明させていただきました。今日まで信念を貫き通して一生懸命やってくれば、皆がついてきてくれると実感しています。

## 助成期間中

### ▶失われたバレエをつなぐ

—— 今回の助成対象となった公演について教えてください。

**有馬** 京都・パリ姉妹都市提携60周年記念公演として、「トリプル・ビル」と題して3本のバレエ作品を上演しました。当バレエ団の芸術監督だった薄井憲二先生が、若い頃にロンドンで『LE RÉVE (ル・レーヴ＝夢)』という公演のポスターを買われ、調べてみたら1800年代後半にパリ・オペラ座で創られたことがわかったそうです。当時流行したジャポニズムの影響が強い作品だったようですが、30数回上演された後はオペラ座でも上演が途絶えていたんですね。でもその楽譜がオペラ座の図書館にあることがわかり、発掘した資料をもとに作曲、編曲し直し、コスチュームも当時のコンセプトを活かして製作し、埋もれた作品を復活させることになりました。常々「失われつつあるバレエを繋いでいってほしい」と仰っていた薄井先生は残念ながら2017年末に亡くなられたのですが、先生の遺志を継いで、この作品を世界初演することができたんです。もう2本は、共に京都では上演されたことのないピエール・ラコット振付によるフランス・スタイルの『パキータ』抜粋と、『ラ・バヤデール』第2幕です。

—— 助成による成果をどう捉えていますか。

**有馬** フランスで上演された幻のバレエを縁の深い日本で復元することは、薄井先生の強い願いでした。その文化的にも大きな意義のあることを助成によって実現できましたし、パリ・オペラ座の振付師とトップダンサーを招聘できたことでプロジェクトの広い周知に繋がっただけでなく、共演した日本人ダンサーにとっても、作品理解や表現、技術を学ぶ貴重な機会となりました。加えて、衣装製作では和装と洋装、結髪師と美容師といった分野の違う専門家のコラボレーションで地方産業を活性化できましたので、様々な点で公益性の高い公演になったのではないかと思います。

## 今後の展望

### ▶バレエ文化の教育を

—— フランスバレエだけでなく、日本の創作バレエも上演していますね。

**有馬** 今回の助成からは外れてしまったのですが、昨年は『びょうぶ』というオリジナル作品で舞踊家協会賞をいただきました。当バレエ団の創設者である私の母、有馬龍子が創ったもので、屏風からお化けが出てきて

男を襲う、という非常に面白い作品なんです(笑)。『ジゼル』に代表されるロマンチックバレエには、この世の者ではないキャラクターが登場しますが、死後の世界と生者の世界が行き来するという点では、実は能の精神と同じなんです。そう考えるとフランスと日本の文化の共通性を感じますし、ストーリーの意味もより深く考えるようになります。ですから日本独自のバレエの創作にも力を入れていきたいと思っています。

—— 今後の夢をお聞かせください。

**有馬** 今、日本ではバレエのコンクールが年間100近くあり、私も審査員を務めることがあります。子供たちはコンクールで賞を取ったら終わりなんです。作品やキャラクターの意味も知らないまま、スポーツのようにたくさん回転すればいいと考えている人が多いのは非常に残念ですね。薄井先生が「バレエが失われつつある」と危惧されていたのはそういう点です。だからこそ私たちは、歴史を含めた文化芸術としてのバレエをしっかり伝えていかなければと強く思います。

京都バレエ団は全員が京都バレエ専門学校の卒業生で構成されていますが、新国立劇場バレエ団で活躍している卒業生もいます。入団の審査をされた先生が、その子に対して「クラシックバレエとロマンチックバレエのお辞儀の違いがわかっている」と評価してくださいました。バレエの歴史、基礎からちゃんと教えていることが実を結んだと嬉しくなりました。

助成を受けることは誇りですが、同時に助成していただくからには、崇高な理念を持って公演を行わなければ、観る方に感動していただくことはできません。経済的には常に変ですが、これからも全力でバレエ文化の振興に力を注いでいきたいと思っています。



▲ラ・バヤデール ©瀬戸秀美



▲ル・レーヴ ©瀬戸秀美

# 1 千葉交響楽団定期演奏会

公益財団法人 千葉交響楽団

助成金額 1,159千円

## 活動概要

1980年に結成されたニューフィルハーモニーオーケストラを母体とし、85年に財団法人ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉として設立。主に千葉県内で定期演奏会並びに特別演奏会、県民芸術劇場、音楽鑑賞教室を主要事業として活動を展開している。2012年、公益財団法人に移行。16年には指揮者山下一史を音楽監督に迎え、千葉交響楽団と改称。「おらがまちのオーケストラ」を掲げ、県民により親しまれるオーケストラを目指している。

新体制3年目となる2018年度は、山下音楽監督が最も得意とするR.シュトラウスの名曲を取り上げ、第103回定期演奏会では、R.シュトラウス/交響詩「死と変容」ほか、第104回定期演奏会では、R.シュトラウス/四つの最後の歌ほかを演奏した(共に千葉県文化会館大ホールにて)。



▲第103回定期演奏会 ©金瀬胖



▲第104回定期演奏会 ©金瀬胖

## 助成を受けて

新しい体制と名称での活動も県民に浸透しつつあり、さらなる楽団のレパートリーの拡大とともに、県民の音楽生活の充実に向けて活動を続けています。音楽が描き出す物語や自然現象、そして心の移ろいを、多くの人々が感じ、音楽により親しみを持っていただくことを指針としており、特に2011年3月の東日本大震災を機に、改めて音楽の力が認識されるようになったと実感しております。県民が定期的にオーケストラ演奏に触れることによってひとときの安らぎの機会を得て、殺伐とした今日の社会生活に少しでも潤いと平穏が得られることを、波及効果として期待しています。

しかし、基本的に編成の小さい当楽団が、大きな編成の曲を県民の皆様に聴いていただくことを考えると、どうしても財政的な問題に直面してしまいます。今回、助成をいただいたことにより、弦楽器の編成を大きくして、オーケストラのサウンドを充実させることが可能となり、音楽監督の希望に沿ったプログラミングにより、従来あまり取り上げてこなかった曲を、県民の皆様にご提供することができました。

多くの県民の皆様、身近な場所で多彩かつ質の高い音楽を届けることが、公益財団法人としての公益性と考えております。この観点から、入場料金をできるだけ安価に抑え、音楽の好きな方ばかりでなく、若い方たちにも演奏会に来ていただけるよう、努力を重ねる一方、障害者施設や老人ホームなどへのアウトリーチ活動にも力を入れています。

今後も助成金を活用させていただきながら、県民の中に音楽愛好者・楽団ファンを増やしていきたいと考えています。そのためにも県内各地で演奏会の場所を増やすことや、楽団員の拡充を図っていききたいと思います。

## 公益財団法人 千葉交響楽団

〒260-0855 千葉県千葉市中央区市場町11-2

Tel: 043-222-4231 e-mail: contact@chibakyo.jp

URL: <http://chibakyo.jp/>

# 2 篠原聖一バレエ・リサイタル DANCE for Life 2018

DANCE for Life 実行委員会

助成金額 2,398 千円

## 活動概要

篠原聖一が芸術監督を務める DANCE for Life 実行委員会では、広く舞踊の振興と普及、舞台芸術愛好家の増加に寄与するとともに、若手舞踊家・振付家の育成を目指し、2001 年青山劇場（東京都港区）での第 1 回公演以来、これまでに 10 回の公演を開催。2018 年は篠原聖一演出・振付による 2015 年初演のオリジナル全幕作品『AN'A 「KH」 宿命～ノートルダム・ド・パリより～』の東京初演を実施。ヴィクトル・ユゴーの小説を原作として、エスメラルダに下村由理恵、フロロに山本隆之、カジモドに佐々木大を配役し、悲劇的な結末に至るまでの人間の「優しさ／醜さ」という相反する側面と狂気を、現代にも起こりうる人間関係として描き出し、「人の生」を考え直すきっかけとなる公演を目指した。

2018 年 11 月 11 日、メルパルクホール（東京都港区）にて 1 回公演。



▲アナンケ  
撮影：岡村昌夫（テス大阪） photo Masao Okamoto (TES Osaka)



▲アナンケ  
撮影：文元克香（テス大阪） photo: Katsuko Fumimoto (TES Osaka)

## 助成を受けて

DANCE for Life 実行委員会では、篠原聖一芸術監督のもと、下村由理恵をはじめ国内外で活躍する優れたアーティストが参加し、バレエが持つ身体表現の優雅さ・力強さや、ライブ芸術としての醍醐味を通して観客とのコミュニケーションを図りつつ、現代と接点を持つ作品の上演を特徴としています。篠原聖一の斬新な解釈・演出はもとより、キャスト・スタッフの総力による芸術性の高さや作品スケールの大きさは「個人のリサイタルで手がけるには異例ともいえる大作」ともご紹介いただいておりますが、経済的には極めて厳しい状況にあり、助成金の申請をいたしました。

本助成をいただいたことでチケット料金・席種の見直しを行い、収入率・入場率が当初計画を上回り、当団体過去最高入場者数（1,133 名）に近い、1,106 名（有料入場 1,026 名）の来場者を迎えることができました。また、助成によって幅広い層のダンサーが参加したことで、多彩な登場人物の心理や作品テーマをより明確にすることができ、本作をレパートリーに加えることができました。

本活動の特徴のひとつは演出を活かした、所属・キャリア・世代を超えた既存のバレエ団ではなし得ないキャスティングです。高いテクニックと優れた音楽性・表現力を併せ持つ主要キャストや、中堅・若手・ジュニア総勢 43 名のダンサーたちとの作品創りを通して、今後の舞踊界を担う若手・ジュニアダンサー育成の環境・機会作りにも寄与できたと考えています。

今後も助成を活用させていただきながら、オリジナル全幕作品上演のほか、200～500 席規模の会場での、音楽やストーリーになじみのある題材を作品化した親しみやすいバレエ公演の開催等、幅広い観客層にバレエを身近に感じていただける公演を目指していきたいと思っています。

## DANCE for Life 実行委員会

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-6-2 諏訪ビル 301 Dance in Deed! 内

e-mail: [danceforlife.info@gmail.com](mailto:danceforlife.info@gmail.com)

URL: <http://www.seiichi-yurie.com>

<https://www.facebook.com/danceforlife.info/>

# 3 iaku 演劇作品集

iaku

助成金額 1,612千円

## 活動概要

劇作家の横山拓也が2012年に大阪で本格始動させた演劇ユニット「iaku」。公演の度に、主に小劇場演劇で活躍する優れた俳優を招き、オリジナル作品を日本各地で発表している。

日本人的な感情のぶつかり合いをエンターテインメントに仕立てる会話劇にはかねてから高い評価を受けており、2018年5月16日～28日、「iaku 演劇作品集」として、特に近い人間関係を描いた4作品を東京・こまばアゴラ劇場で再演した（全23公演）。親子・夫婦間の尊厳死や命の選別の問題に迫る『肅々と運針』、事故で片腕を失った女性とその同僚、友人を描いた『人の気も知らないで』、母親と同性愛者の娘との会話から現代の親子関係を描き出す『あたしら葉桜』、自死した母親とその娘との不思議な語らいが進む『梨の礫の梨』。うち2作は仙台、福岡、金沢をはじめ全国でも上演された。



▲あたしら葉桜



▲肅々と運針 撮影：堀川高志

## 助成を受けて

これまでに私たち iaku は、登場人物が「議論」あるいは「対話」していく姿をエンターテインメントとしてストレートに見せてきました。今回再演した4作品は、対話によって人間関係の新たな扉を開ける劇として、特に好評だったものです。iaku の、対話を大事にした作品には、世の中の様々な問題に「疑問を持つ力」を養う要素もあると自負しています。日本人は「語りたい内容」「伝える欲求」「意見の交換」の意識を持つことが重要だと思います。私たちの作品を契機に、そうした日常の諸問題に言葉（意見）を持つことを促されることが、iaku ならではの観劇体験であると考えています。

ただ、予算の確保には日頃とても苦労しており、創作に長時間集中できないのが現状です。今回、助成金を受けることによって、ツアー先への交通費や宿泊費に経費を割くことができ、完成度の高い作品を創作するための出演者・スタッフの環境を整えることができました。また、金沢公演では金沢21世紀美術館内のホールを使用させていただき、外国人観光客の動員を想定して英語字幕を作成しました。こちらも助成金の支えによるものです。首都圏以外の地域での公演は集客が厳しく、助成金なしではなかなか実施に踏み切れません。映像配信サービスが次々と生まれる昨今、“生”の人間を直視し、観客へ問題提起もしていく現代演劇のような文化が存続することは大きな意義があるはずで、このような文化に触れられる場を増やしていくことは、広く公益性に資するものと信じています。

今後も、助成金を活用して、作品の質の向上や観客数の増、さらには日本語のニュアンスを活かしたせりふ劇を海外で上演することにも視野を広げていきたいと思っています。

iaku

e-mail: info.iaku@gmail.com URL: <http://www.iaku.jp>

# 4 代々木果廻会平成 30 年度記念公演付き 定例公演

代々木果廻会

助成金額 928 千円

## 活動概要

顧客満足度の高い能公演を提供する任意団体として、1998(平成 10)年より継続的に活動を行っている代々木果廻会。その活動拠点である代々木能舞台は、半屋外の古来の形を保つことで季節を肌で感じながらの観劇が可能になっているほか、舞台と客席との距離が近いために役者の息遣いまでが感じられ、観客にとって貴重な芸術空間となっている。

2018 年は活動 20 年の節目として、主宰者の一人である浅見真州が集大成として臨む 4 月公演『花筐』をはじめ、5 月『采女』、9 月『小袖曾我』、10 月『花筐』の計 4 回公演を実施した。また、一部公演では別日にミニレクチャーも開催するなど、観客の古典芸術に対するより深い理解にも努めた。

## 助成を受けて

半屋外、そして役者と観客との近い距離感が特徴の代々木能舞台は、「一座建立」の贅沢な世界を味わえる半面、座席数が限られてしまうために満席でも採算が取れません。それでもなお、この有形無形の文化財を守り、質の高い能公演を続けることは我々の使命だと信じ、これまではメンバーが自己負担で赤字を補填してきました。助成金を活用することで、メンバーの金銭的負担を軽減し、自己研鑽に集中するようにし、チケット代金を抑えられるため集客にも繋がると考え、申請しました。

苦しい資金繰りから、手数料のかかるプレイガイドなどにはチケット販売の委託がほとんどできず、広報の場は能楽堂に限られるため、集客にはいつも苦勞しています。ただ本年の公演では、助成金によって、あらずじを入れたより分かりやすいチラシや英語版のチラシを作成でき、新規のお客様が増えました。また、お客様からの要望が多かった土日公演を 2 回に増やした結果、平均来場率は 90 パーセントに達しました。ミニレクチャーでは、「ここまで掘り下げた内容のレクチャーはなかなか聞けない」「当日の公演がより楽しめた」との嬉しいお声をいただきました。

公演としては、第一線で活躍する能楽師や優秀なスタッフの方々に参加依頼ができ、浅見真州喜寿記念公演をはじめ、質の高い舞台を提供できたと自負しています。能楽には確かに分かりにくさがありますが、「一期一会」を大切にする日本人の精神性が根本にある、素晴らしい芸術です。今後も私たちは、安易に奇抜なパフォーマンスに走ることなく、難しいことは難しいなりに、感動を与えられる「本物」の舞台芸術をお見せすることで、愛好者の拡充に努めてまいります。能楽に限らず、よい作品を通じて人々の人生を豊かにすることが演劇の大きな役割であり、公益性だと信じています。



▲花筐 撮影者：高橋健



▲小袖曾我 撮影者：高橋健

## 代々木果廻会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-36-14

Tel: 03-3370-2757 e-mail: info@yoyoginoubutai.com

URL: <http://www.yoyoginoubutai.com/>

# 5 アートアイランズ TOKYO2018 第8回 国際現代美術展

東京の島々を結ぶアート航路開発委員会

助成金額 1,070千円

## 活動概要

東京都島嶼部での現代美術展を開催することを目的に2010年に設立し、近年はアートアイランズ TOKYO 国際現代美術展を毎年企画、運営している東京の島々を結ぶアート航路開発委員会。2018年の美術展は、大島(9月1日～16日)、新島(8月28日～9月14日)、式根島(同)の3島が会場となり、国内外のアーティスト28人が、現地の空間を生かした映像・絵画・立体などからなるインスタレーション作品を入場料無料で展示した。

多くの作家は事前に現地を見学し、文化や風習、島民との触れ合いを創作に生かしながら、野外を含めた美術館でもギャラリーでもない場所に自ら作品を設置する。今回の会場も神社境内や住民センター、居住者のいる庭先など多岐にわたっており、人気度や認知度は内外でますます高まっている。

## 助成を受けて

私たち東京の島々を結ぶアート航路開発委員会の「東京の島々」とは、伊豆諸島と小笠原諸島を指します。伊豆諸島は明治時代以降、文化人も多く集まった繁栄の名残ある歴史的建造物が多く存在する土地。また、小笠原諸島は、現在、世界自然遺産にも登録されています。しかし、時代の流れとともに交通インフラが整備された分、建造物だけでなく、生活様式など島独自のアイデンティティーそのものが失われつつあるのも事実です。

そうした中、かつての歴史や文化が色濃く感じられる多様な場所とのコラボレーションで作品を展示する同美術展は、その土地ならではの財産を再考させるという、現代美術の新たな役割を具現化しています。また、作家の多くが現地を見学した上で展示までを担うという過程は、現地の方々にとっても、初期段階から芸術家や作品に触れた上で展示と対峙できる、貴重な機会になっています。大島をはじめとする島々は都心から、高速艇で1時間45分の距離にたどり着きながら、島嶼部には美術展が開ける専門施設がないなど文化芸術面での環境格差は大きく、町のソフト面への予算は教育も含め決して多くありません。

今回、助成金を得ることで、これまでの開催地に加え、大島町の岡田地区、新島村の式根島と、より多くの会場で開催することができました。これらの会場には神社の境内や住民センター、学校など生活に近接した環境を含み、住民がより密接に美術や文化に触れるきっかけになったほか、学生らのワークショップの参加やパフォーマンスの見学の拡大にも役立っております。太平洋側の離島ゆえ、年々数が増加している本島からの訪問者が台風によって左右されるなど苦勞も絶えませんが、これまでの大島・新島・式根島という3島での実施を超えるべく、今後も助成金の力をお借りしながら、島の文化と現代美術との共存を図っていきたく思います。



▲関直美『何か聞こえる (Something is Heard)』新島キンデー宅  
コーガ石の豚小屋



▲藤井龍徳『裏庭の出来事』木の宿(きのやどり)旧ホテル椿園

数年前まで、ここは木々に囲まれたキャンプサイトであった。数年前、土石流が襲い今は更地となり多くの雑草が生える。藤井はここで、3つの展示を行った。そのうちの1つ、木製の構築物の内部で人々は語らう。

## 東京の島々を結ぶアート航路開発委員会

〒177-0035 東京都練馬区南田中 2-4-11

Tel: 03-6760-7258

URL: <http://www.art-islands-tokyo.com/>

<https://www.facebook.com/Art-Islands-TOKYO-651231744888925/>

# 6 舞禪

鉄秀

助成金額 800千円

## 活動概要

大きな絵画や書を描く際の身体の動きを舞踏的に捉えたオリジナル表現を舞描（ぶびょう）と称し、舞踏家やダンサーとのコラボレーションを行ってきた鉄秀。墨絵師・デザイナーとして活躍する東學との「禅問答 LIVE PAINT」と銘打った『舞禪』での独創的な世界観は、多くの支持者を集めている。

絵画の作成と座禅を即興的に掛け合わせ、最終的に真の調和を見出していく前衛的な同作品は人気が高く、2019年2月14日～17日、東京の演劇の中心地の一つである下北沢ザ・スズナリで上演された。



▲舞禪

## 助成を受けて

本作品は描画、舞描、身体表現、演奏、ライティングデザインなどの異なる表現がぶつかり合うことで、予期せぬアートシーンが生まれることを追求したものです。ジャンルの異なる表現が横断することで、新しい価値観と驚きを伴う作品が生まれます。このようにして生み出された作品は、新しい価値観と驚きを伴いつつ、教育の現場においては、表現には無数の選択肢があることを、また、広く社会においては、多分野が融合して新たな表現やテクノロジーの変化、人類の発展の可能性を、それぞれ見通すきっかけになります。

こうした挑戦的な作品は収入よりも支出が上回るため、さらなる進化にはなかなか踏み切れないのが現状です。しかし、今回、助成金を得られたことで、最新のLED技術を駆使した新たなライティングデザインが可能となり、空間をより非日常的に変化させられました。

また、今作では、向雲太郎氏、川村美紀子氏、川口隆夫氏といった異ジャンルのダンサーに日替わりで参加していただいたことで、毎回、違った趣向で鉄秀と東學氏の禅問答に絡み合い、より立体的な構造を創り出すという狙いが実現できました。

出演ダンサーを日替わりで迎えるという贅沢は、基本的なコンセプトに加えて、表現の幅が無限に広がることに繋がります。こうした変化に対する工夫が観客の満足度を高め、アンケートでは複数回鑑賞し、「違いを楽しむことができた」という声もいただきました。

さらに、助成金により広報にも力を入れられたため、新たな顧客を獲得した実感も得ています。同時期に開催された国際的に認知された舞台人の交流の場である「TPAM—国際舞台芸術ミーティング in 横浜」での呼びかけも可能となり、本公演には多くのプレゼンターに会場いただきました。

今後はダンサーだけでなく、即興ミュージシャンにも参加していただくなど、「禅問答」という日本文化に芸術的なアプローチを加えていけたらと思います。



▲舞禪

## 鉄秀

〒634-0812 奈良県橿原市今井町 2-8-9

Tel: 090-4906-7357 URL: <http://tesshu.art>

# 7 第43回湯布院映画祭

湯布院映画祭実行委員会

助成金額 942千円

## 活動概要

映画の創り手である実作者と、受け手である観客との出会いと交流のため、また日本映画の活性化と発展の場を目指して、1976年、「映画館一つない町、しかしそこに映画はある」をテーマに第1回映画祭を開催。日本を代表する温泉地・大分県湯布院町（現由布市）で開催される映画祭として40年以上の歴史を重ね、日本映画ペンクラブ奨励賞、山地ふみ子文化財団特別賞、文化庁長官賞、西日本文化賞など数々の賞を受賞したほか、2017年には第8回地域再生大賞大分県代表に選出されるなど、映画祭による地域活性化の実績が高く評価されている。

第43回を数える2018年は、「佐藤浩市特集」を柱として、湯布院公民館（由布市湯布院町）を会場に8月23日（前夜祭）、24日～26日に開催。佐藤浩市氏をはじめ俳優、監督、評論家など多彩なゲストを招き、映画上映とシンポジウム計14回を行い、約3,000人の参加者を集めた。



▲前夜祭野外上映



▲舞台挨拶

## 助成を受けて

自分たちの感性を基に自由に企画・立案することを趣旨として開始した映画祭だけに、当初は、スポンサーや団体から経済的支援を受けないスタンスでした。しかし、映画祭を継続していくためには外部の資金援助も必要との大分県地域振興関係部署からのアドバイスを受け、貴助成金を申請しました。助成により、映画祭に必要な映写技師の確保や作品及び上映機器の借用を賄ったほか、大物ゲストの招へいも可能になりました。また、貴助成金を受けること自体が映画祭の信頼度を向上させ、地方公共団体への各種協力依頼や、マスコミを含めた後援依頼を行う際の手続きがより円滑になりました。

地方で開催する映画祭として、コアな映画ファンを取り込みつつも、地域の人々も楽しめる映画祭にするために、湯布院映画祭の特色を出せる企画づくりにいつも腐心しています。ボランティアの方などを含め、地域の人々を巻き込み、結果的に地域の活性化にも繋がるのが、当映画祭の公益性だと考えます。

今回の映画祭では、特集の柱とした俳優・佐藤浩市氏がシンポジウムに参加していただき、観客からの質問にも真摯に応え、映画に対する熱い思いを語っていただいたことが大きな成果でした。名声を得たなお、絶えず研鑽を重ね、いかに自己実現を図るかを熟考する氏の姿勢は、多くの観客に共感を持って迎えられたと思います。観客それぞれにとっても、人生や仕事との向き合い方に改めて思いを馳せられる貴重な機会となりました。

観客やゲストを含めて、湯布院でしか出会えないであろう機会をこれからも作り続けていくことが、「映画館一つない町、しかしそこに映画はある」をキャッチフレーズに始まった当映画祭の一貫したテーマです。今後も助成金を有効に活用させていただき、訪れた方や地域の人々にとって記憶に残る映画祭を続けていきたいと思っています。

## 湯布院映画祭実行委員会

〒870-0022 大分県大分市大手町 2-2-5 第2信用信販ビル 4F

e-mail: yufuin-c@po.d-b.ne.jp URL: <http://www.d-b.ne.jp/yufuin-c/>

# 8 ISHINOMAKI 金曜映画館 特集「愛と希望の映画たち」

ISHINOMAKI 金曜映画館運営委員会

助成金額 300千円

## 活動概要

映画を上映することで東日本大震災被災地の人々を元気づけ、復興に協力したいという全国の上映者の思いを届けるプロジェクト「シネマメール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」から派生した上映会「ISHINOMAKI 金曜映画館」。2012年5月より活動を開始し、新旧の映画を上映してきた。

2018年6月2日・3日、みやぎ生協文化会館アトピアホール（宮城県石巻市）で実施した特別上映会では、「愛と希望」をテーマにした作品として、『幼な子われらに生まれ』（三島有紀子監督）、『やさしくなあと～奈緒ちゃんと家族の35年～』（伊勢真一監督）、『希望のかなた』（アキ・カウリスマキ監督）の3作を2回ずつ上映。『やさしく～』の伊勢監督によるゲストトークも開催された。



▲ISHINOMAKI 金曜映画館上映会風景

## 助成を受けて

「ISHINOMAKI 金曜映画館」は、ISHINOMAKI2.0（石巻）とコミュニティシネマセンター（東京）が共同で行っているプロジェクトです。本事業のような小規模な映画上映会を、映画使用料をきちんと支払い、映写環境も整った形で実施するには、入場料収入以外の財源が必要不可欠となるため、貴助成金を申請しました。

貴助成金により、石巻ではなかなか観ることができないインディペンデント系の傑作を上映する機会を設けることができました。特に、これまではスタッフ不足で広報活動や地元自治体の支援の確保等が十分にできず苦勞していたところが、助成金をスタッフ人件費に充てることで、今まで訪れていなかった市内介護福祉施設等に向けた広報活動を充実させ、施設で働いている方や、施設の入居者のご家族にもご来場いただいたほか、伊勢真一監督をゲストに招いてトークを行い、来場者により深い理解と感動を提供することができました。

石巻市は郊外に「イオンシネマ石巻」がありますが、かつて5館もの映画館があった中心市街地からは映画館がなくなっています。しかし、震災以降、この町を元気にしようと多くの人たちがさまざまな活動を続けています。このような地域で上映会を行うことで町の賑わいづくりの一端を担い、また上映者の育成を行うことは、公益的な活動であると考えています。

コミュニティシネマセンターでは、今後も必要に応じて助成金を活用しながら、石巻の人たち自らがこのような上映活動を行う際には、全面的に協力したいと思っています。



▲巨理町から苦米地サトロさん（ミュージシャン）もかけつけてくださいました

## ISHINOMAKI 金曜映画館運営委員会

〒986-0822 宮城県石巻市中央2-10-2 新田屋ビル1階 ISHINOMAKI2.0内

Tel: 050-3535-1573（コミュニティシネマセンター）

URL: <https://www.facebook.com/kinyoueigakan.ishinomaki/>

<http://cinema-yell-tohoku.com/>

# 9 第27回みつなかオペラ プッチーニ：歌劇「トスカ」

公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団（川西市みつなかホール）

助成金額 4,718千円

## 活動概要

1991年に川西市民オペラとして発足、96年より新開場したみつなかホールにて年一回の公演を続けているみつなかオペラ。兵庫県川西市の音楽家を中心に舞台芸術家らで構成された実行委員会方式で運営され、3年単位でテーマを設けシリーズで上演している。中でもイタリア名作オペラシリーズでの「アイダ」、ベッリーニシリーズでの「清教徒」では大きな反響を呼んだ。

2018年10月6日・7日に開催された第27回公演では、プッチーニの人気歌劇『トスカ』（トスカ役6日：木澤佐江子、7日：並河寿美）を上演。第25回公演より取り組むプッチーニ・シリーズの集大成となった。



▲歌劇「トスカ」 撮影：仲野達也

## 助成を受けて

みつなかオペラを多くの聴衆に支持していただくには、内容のレベルアップを毎年図ることが不可欠です。2001年からイタリア・オペラを軸に3年ごとのシリーズ企画を続けた私たちが、その集大成として選んだのがプッチーニの『トスカ』でした。しかし、『トスカ』は舞台装置が大がかりな上に、人員もキャスト、助演、管弦楽、児童合唱、効果音の要員と大所帯となるため、衣裳の用意やスケジュール調整、稽古場の確保に苦労します。さらに、公共ホールとして質の高い芸術作品を安価で地域住民に提供することを目的としているため、金銭的な負担を入場料に反映することもできません。助成金は、そうした状況に苦慮している私たちにとって非常に大きな力となっています。

今回、助成金を得たことで、プッチーニの代表作にふさわしい装置や衣裳を確保するとともに、国内の有力オペラ団体の歌手を招へいすることにより演奏面を充実させ、劇中一番の見せ場「テ・デウム」の場面を豪華かつ荘厳なものにすることが可能になり、舞台全体の質の向上が実現できました。さらに、入場料を安価に抑えることで、集客の増加を達成し、地域住民への文化の普及に資することができました。

近年では遠方からもファンが訪れ、みつなかオペラは地域の文化振興の好例として川西市を全国的にアピールする存在になっています。また、若手歌手の登竜門としても知られるようになり、多くの才能が当オペラで活躍の場を広げていきました。上質なオペラ作品を紹介するのはもちろん、今後はこれまでに培った経験、人脈などの財産を活かした地域オペラ制作のケーススタディとしてもアピールしていきたい。それが我々の存在意義、ひいては公益性にも繋がっていくと思っています。



▲歌劇「トスカ」 撮影：仲野達也

## 公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団

〒666-0015 兵庫県川西市小花 2-7-2

Tel: 072-740-1117 URL: <http://www.mitsunaka-bunka.jp/>

# 10 「工芸の教科書」

栃木県（栃木県立美術館）

助成金額 1,214千円

## 活動概要

2018年11月2日～12月24日、栃木県立美術館（宇都宮市）にて開催された本展では、濱田庄司、田村耕一、島岡達三、飯塚小玗齋、勝城蒼鳳、藤沼昇ら重要無形文化財保持者をはじめとする栃木ゆかりの作家による6分野の工芸品を約100点展示。同時に、一般にはあまり知られていない制作背景を、素材や道具、技法の観点から紹介してその魅力に迫った。

なお、本展は、東京オリンピック・パラリンピックにちなんだ「とちぎ版文化プログラム」の一環として開催。「レガシー・継承」を基本コンセプトとする同プロジェクトの統一テーマ「技・巧」に沿った企画展やコンサートも実施したほか、関係各所と連携を図り、県内の文化施設や工房を回るスタンプラリーなども行った。



▲企画展「工芸の教科書」展 釉薬の原料と焼成についての紹介



▲企画展「工芸の教科書」展 展示風景

## 助成を受けて

栃木県はかつての民芸運動のメッカとしても知られる益子を擁し、陶芸で3名、竹工芸で2名の重要無形文化財保持者を輩出するなど、日本の近代工芸が形成される上で極めて重要な地です。しかし、当館の企画展示室は汎用性を重視した壁面だけの構造となっており、当館所有のケースに収まらない日本画や工芸作品を展示する際には、サイズに見合うケースをその都度借用しなければなりません。それらを自主財源だけでは用意できず、また企画展関連イベントや小冊子等も充実させたいとの思いもあり、今回助成金を申請しました。

その結果、仮設展示ケースの台数を増やし、作品を安全かつ美しく展示することができたほか、内容をコンパクトにまとめた小冊子もオールカラーで製作することで、好評な売れ行きを博することができました。さらに、関連イベントとして、出品作家（漆芸）による金継ぎのワークショップのほか、重要無形文化財保持者（竹工芸）・藤沼昇氏によるワークショップ「人間国宝直伝！親子で体感する『竹工芸』」を開催。その他、担当学芸員のギャラリートーク、日本工芸会主催の「技の伝承研修会」、「あーとネット・とちぎ」による陶芸ワークショップも併催し、県内外から多くの人に足を運んでいただきました。来館者の満足度が高かったのも、助成金によって内容を充実させられたことが大きかったと思います。

栃木ゆかりの作家の優品をあらゆる角度から紹介した本展により、地域の文化・芸術の活性化及び顕彰に大きく貢献できたと私たちは自負しています。日本の工芸に対する評価が海外でも高まっている昨今、今後も魅力的なテーマの展示を企画することで、栃木の文化振興に寄与するだけでなく、日本工芸全般の素晴らしさを国内外に発信していきたいと思っています。

## 栃木県立美術館

〒320-0043 栃木県宇都宮市桜4-2-7

Tel: 028-621-3566 URL: <http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

# 11 海野宿重要伝統的建造物群保存地区 「伝統的建造物群等保存の記録Ⅲ」作成活動

東御市

助成金額 302 千円

## 活動概要

寛永 2 (1625) 年、北国街道の宿駅として開設された海野宿 (うんのじゅく)。当時、北国街道は北陸道と中山道を結ぶ重要な街道となっており、佐渡で採掘された金の輸送や北陸諸大名の参勤交代に使われたほか、江戸との交通も頻繁だったため、善光寺への参拝客もこの道を通ったという。

宿場機能が失われた明治以降は養蚕・蚕種業が盛んになり、江戸時代の旅籠屋造りや茅葺屋根の建物、その後の蚕室造りの建物とが調和した町並みが現在も残っている。昭和 62 年、文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたことを機に、長野県東御 (とうみ) 市ではその保存活動の記録をまとめた「伝統的建造物群等保存の記録」を 10 年ごとに作成。今回が 3 度目の取り組みとなる。



▲伝統的建造物群等保存の記録Ⅲ

## 助成を受けて

江戸時代、北国街道の宿駅として栄えた海野宿は、中央に用水路が流れる街道の両側に約 100 軒の家屋が建ち並び観光名所です。昭和 61 年に建設省の「日本の道百選」、昭和 62 年には文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、東御市としても町並みの保存に尽力してきました。

その活動の一つが、「伝統的建造物群等保存の記録」の作成です。これまでも「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されてから 10 年間ごとにそれぞれの保存活動を記録集にしてきましたが、今回は平成 20 年度から 29 年度に修理・修景を実施した伝統的建造物等について、工事前後の状況写真・工事図面・工事概要などを収集、集約し記録集にまとめました。10 年間に実施した修理事業に関する膨大な資料を整理し、紙面にまとめることに苦労しましたが、修理事業は修理を終えたら完了ではなく、残した記録を今後の町並み保存事業促進の参考資料として役立てていくことが重要です。その意味で「保存の記録」は、修理事業の詳細や必要性を幅広く周知するためにたいへん有効な手段となります。地区住民に対し、地区内でどのような修理が行われているのかを明らかにすることは、地域の財産である伝統的町並みの価値を再認識する機会ともなります。この点において「保存の記録」の作成は、公益性の高い活動であると考えます。

助成金によって、今回は記録集 500 部と概要版パンフレット 5,000 部を作成することができました。地元住民や関係機関にこれらを配布することで、修理事業に対するより大きな理解と関心を持っていただけるよう努めています。今後は、海野宿の景観を楽しんでくださっている観光客の方たちにも活用することで、保存事業の重要性をさらに広く周知していきたいと思います。



▲海野宿の町並み

東御市教育委員会事務局教育部教育課文化財係

〒389-0592 長野県東御市 281-2

Tel: 0268-75-2717 URL: [kyouiku@city.tomi.nagano.jp](mailto:kyouiku@city.tomi.nagano.jp)

# 12 市制施行 60 周年記念 郷土芸能フェスティバル

西之表市

助成金額 929 千円

## 活動概要

鹿児島県の種子島北部に位置する西之表（にしのおもて）市。この地では古くから多くの郷土芸能が伝わっていたが、地域を取り巻く環境の変化や高齢化などによりその数は次第に減少しつつある。

先人の残した郷土芸能は各地域のみならず市民の財産であるという考えのもと、2018 年 11 月 25 日、「市制施行 60 周年記念 郷土芸能フェスティバル」が西之表市民体育館敷地内で開催された。10 年ぶりのフェスティバルでは、各地域 11 の郷土芸能（種子島大踊、横山盆踊、古田獅子舞、住吉源太郎踊、安納棒踊、寺之門花踊、古田棒踊、ヨンシー踊、洲之崎どすこい踊、田之脇棒踊、兵児踊）が一同に会し、その伝統芸を披露した。



▲市制施行 60 周年記念 郷土芸能フェスティバル



▲市制施行 60 周年記念 郷土芸能フェスティバル

## 助成を受けて

種子島の郷土芸能の多くは、毎年 10 月に催される願成就祭で披露されます。神社に料理を持ち寄って酒を酌み交わし、各集落に伝わる郷土芸能を奉納するものです。そうした郷土芸能を広く市民に公開し、文化財保護への関心を高めるとともに、各保存会における伝承活動の重要性を再認識してもらおうと、西之表市では昭和 33 年の市制施行から 10 年ごとに大きな郷土芸能大会を開催しています。

通常、地域の郷土芸能を一度に集めるのは困難です。しかし、今回のフェスティバルでは助成金により出演団体（保存会）に手厚い支援を行うことができ、11 団体もの参加が実現しました。保存会も新しい踊り手の育成や練習回数増加に力を注ぐなど、よい担い手を育成していかなければ、郷土芸能の保存や発展は望めません。フェスティバルの成功ももちろん大切ですが、保存会のそうした意識高揚こそが、私たちにとって一番の成果だったと感じています。

出演団体が多い分、1 団体に当てる時間は 15 分程度。短い時間の中で、その芸能の由来や特徴、団体の頑張りなどを紹介するのはとても苦労しましたが、助成金を受けて作成したポスターやチラシの効果もあり、多くの市民がフェスティバルを楽しんでくれました。また、種子島は民俗芸能の宝庫とも言われており、鑑賞のために遠くから訪れる観光客も多くいます。「種子島西之表市いけばな展」「種子島鉄砲村商工フェスティバル」など、他イベントと同時開催することで、観光産業への波及効果も大きかったと自負しています。

今回は県や市指定の郷土芸能だけではなく、未指定の郷土芸能にも参加してもらうことができました。意欲を持った団体の継続的な活動のためにも、今後は、市指定選定へのバックアップなどにも力を入れながら、助成金も利用させていただき、郷土芸能の保存に広く尽力していきたいと思っています。

## 西之表市教育委員会 社会教育課 文化財係

〒 891-3101 鹿児島県西之表市西之表 7585

Tel: 0997-23-3215 e-mail: ks-bunka@city.nishinoomote.lg.jp

URL: <http://www.city.nishinoomote.lg.jp/>

# 13 いちかわ市民ミュージカル第9回公演

いちかわ市民ミュージカル実行委員会

助成金額 1,185千円

## 活動概要

いちかわ市民ミュージカル実行委員会では、千葉県市川市を中心に、子供から高齢者まで三世代にわたる市民を募り、地元に関する題材を扱ったオリジナルミュージカルの創作を行っている。2002年より2年に一度のペースで開催している、この市民主導の活動は、「全国でも屈指」の市民ミュージカルとして注目を集めている。

第9回公演『michio! ～星野道夫物語～』は、2018年9月16・17日、市川市文化会館大ホールで上演。市川市出身の動物写真家である故・星野道夫氏の人間性や生き方を通し、自分の本当に好きな道で生きていくことの大切さを描いた。7歳から74歳までの160人の市民が、長い稽古期間の成果を舞台でいかに発揮した。



▲カリブーの大移動 生きる♪

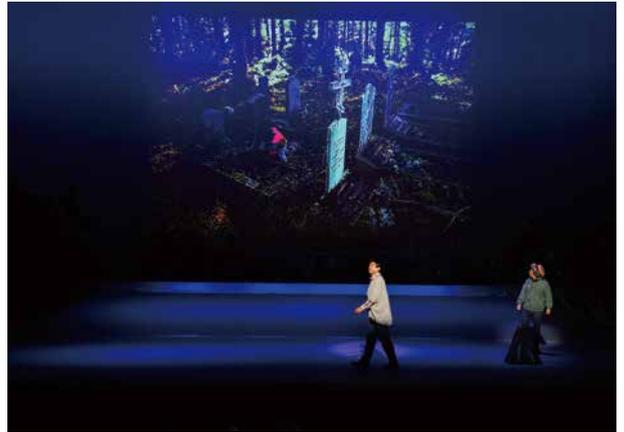
## 助成を受けて

「いちかわ市民ミュージカル」は、今では市民の間ですっかり定着し、首都圏各地からの出演希望者や観客も増加していますが、アマチュア芸術としての質をさらに高めるためには、照明・音響表現の充実を図ることが不可欠で、さらに、仕込み日が1日しかないため、多くの専門スタッフの協力が必要です。ボランティアスタッフの採用や文化振興財団との共催による経費減免、観客増員にも努力していますが、それでも人件費を中心に大きな負荷がかかります。これらの財政的困難の一助とするため助成金を活用させていただきました。

本番では、助成金のおかげで充実した舞台美術や照明・音響効果を実現でき、客席から歓声と拍手を何度もいただきました。また、子供から高齢者まで160人もの参加者による集団的エネルギーに満ちた圧倒的ダンスと歌唱表現に対して高い評価を得ることができました。

一方、参加者からは、アマチュアゆえに休日の稽古が中心で拘束期間は長くなるにもかかわらず、「次回も出演したい」という声を多くいただきました。当ミュージカルがここまで成長したのは、「創作現場に一つの地域が生まれる」ような、世代を超えた熱い交流を重ねてきたからだと考えています。扱うテーマも地元市川に関するものに絞るといった創造姿勢が、「自分の街を好きになった」と地元観客にも評価されてきました。

近年は参加者による同好サークルが自主的に結成され、毎年合同発表会「いちミュ文化祭」も開催されるなど、「わが街に市民芸術文化の花を咲かせよう！」という意識が根付いてきています。市民主導で20年近く高い評価を受ける公演を開催してきましたが、今後は「市民の芸術的資産を発展させる」という視点から、文化振興財団や行政などとも連携を深めていきたいです。そして助成金も大いに活用させていただき、2年後の第10回記念公演をぜひ成功させたいと思います。



▲シーン 証言者 ボブサム

## いちかわ市民ミュージカル実行委員会

〒272-0824 千葉県市川市菅野 1-1-23 スペースにわにわ内

Tel&Fax: 047-369-7522 e-mail: ichikawa\_shimin\_musical@yahoo.co.jp

URL: ichibun.net/shimin\_musical/

# 14 日本の伝統美と技の世界 —重要無形文化財保持団体秀作展—

全国重要無形文化財保持団体協議会

助成金額 3,394千円

## 活動概要

全国の重要無形文化財の保持団体 14 団体と関連 22 市町村で構成する全国重要無形文化財保持団体協議会。毎年各団体が所属する市町村などで秀作展を開催し、伝統工芸への幅広い理解に努めている。

第 26 回目となった秀作展は、2018 年 11 月 10 日～12 月 10 日に石川県輪島市の石川県輪島漆芸美術館、11 月 20 日～26 日に同県金沢市の石川県政記念しいのき迎賓館で行われた。会場では、各団体から 4～12 点ずつ出品された陶芸、染織、漆芸、和紙など、伝統的かつ高度な匠の技が凝縮された作品を展示すると同時に、輪島塗技術保存会（石川県輪島市）、伊勢型紙技術保存会（三重県鈴鹿市）、色鍋島今右衛門技術保存会（佐賀県有田町）の技術者による製作実演も公開。輪島会場でのべ 2,645 名、金沢会場でのべ 1,803 名の来場者を記録した。



▲秀作展輪島会場



▲製作実演輪島会場

## 助成を受けて

便利で安価な工業製品が日常に浸透する中、日本の伝統工芸を多くの方々に紹介し、その良さを実感していただくことが当秀作展の最大目標です。貴重な作品や実演のための技術者を集結させるには、多大な費用を要します。しかし、精神的な豊かさを内包した「手作り・手わざ」が注目されている昨今の気運を追い風と捉え、活動費の助成を受けることで、展示会場を増やして開催することを企画し、輪島市での開催に加え、今回初めて、加盟団体の地元ではない金沢市にて同展を同時開催することができました。

輪島市・金沢市とも工芸に対する関心が元々高い一方、観光客が多い土地柄でもあり、双方に満足していただける展示内容には苦労しました。作品展や技術者の実演のほか、輪島塗技術保存会による作品解説や製作過程の説明、重要無形文化財についてのパネル展示も実施。結果、特に全国からの来場者が多かった金沢会場で、重要無形文化財の工芸技術そのものを初めて知ったという声を多く聞きました。また、来場者に向けた漆塗りの蒔絵・沈金体験も大好評で、工程の精密さや素材の扱いの難しさ、完成した作品の美しさを肌で感じていただくことができました。本助成により作成した図録や来場者に配布した作品目録も人気が高く、重要無形文化財への理解を深める一助となりました。

工芸とは本来、材料や道具を提供する人も含めた多くの人々が携わって成立するものです。磨き上げられた技やそれを下支えする仕組みをいったん失えば、狭義の伝統工芸だけでなく日本の美術工芸の基盤を失うことにもなりかねず、本協議会の使命は大変大きいと感じます。地道な活動ではありますが、長い歴史の中で日本人が生み出してきたかけがえのない財産を次代に繋げ、周知していくことで、一人でも多くの方のご理解を得ることが公益性に繋がると信じています。

## 全国重要無形文化財保持団体協議会

〒928-0001 石川県輪島市河井町 20-1-1 輪島市教育委員会文化課内  
 Tel: 0768-22-7666 e-mail: bunka@city.wajima.lg.jp

# 15 定期演奏会 みなとみらいシリーズ

公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

助成金額 26,744 千円

## 活動概要

楽団のポスト指揮者によるプログラムを中心に、国内外で活躍する指揮者・ソリストを客演に招き、芸術の粋を集めたクラシック音楽を演奏している神奈川フィルハーモニー管弦楽団の「みなとみらいシリーズ」。2018年度は、「感動」「生きる力」「癒し」「幸せ」「創造」「平和」など、音楽が伝える力を見つめ直した「音楽の道しるべ」をテーマに、計12公演を横浜みなとみらいホールで開催した。

沼尻竜典や小泉和裕、若手注目株のロリー・マクドナルドら著名な指揮者に加え、アルセーニ・タラセヴィッチ=ニコラーエフ（ピアノ）、スヴェリトン・ルセフ（ヴァイオリン）、藤村実穂子（メゾ・ソプラノ）など世界的なソリストを迎えての多彩なラインナップとなった。



▲定期演奏会 みなとみらいシリーズ

## 助成を受けて

「みなとみらいシリーズ」は当楽団の主幹シリーズですが、今年度も定期演奏会の名に恥じない数々の名演奏をお届けすることができました。例えば、沼尻竜典氏を指揮に迎えた第339回公演のマーラー「交響曲第9番」。あるいは、2001年に大阪で起きた附属池田小事件を元にした楽曲で、楽団常任指揮者・川瀬賢太郎が文化庁芸術祭新人賞を獲得する契機にもなった権代敦彦「子守歌」を盛り込んだ第343回公演のプログラム。そうした質の高い活動を推進するにあたり、余裕をもった弦楽器の編成を組むことができ、さらに、指揮者指定の楽譜の版を揃え、パイプオルガンなどの特殊楽器もリハーサルから欠けることなく準備ができたのは、助成金の大きな恩恵です。事業の安定した実施・継続が確実なものとなり、全体的に妥協することなく活動を進めることができました。

ホテルや美術館、飲食店などがホールの近隣に集中しているため、コンサートの半券で優待を受けられる仕組みを構築するなど、地域全体に対する経済的波及効果を生み出すべく尽力もしています。また今シリーズでは、週末に時間を作れない方に向けて金曜日の夜公演を2回実施し、観客の裾野を広げる努力を続けています。

収支を鑑みれば、オーケストラの活動は現代の経済合理性からかけ離れていると言えます。しかし、質の高い演奏を維持・向上させていくことで、長い歴史を誇るクラシック音楽の魅力を現代に伝え、人々の内面を豊かにするという私たちの目的は、公益性にも大いに繋がっていると感じています。また、都内への移動が厳しい高齢者や車椅子の方々が神奈川県内で質の高い芸術を享受する機会を創出するという意味でも、大きな役割を担っています。2020年の楽団創立50周年に向け、地域のニーズをより広く拾い上げ、充実した活動を続けていきたいと思っています。



▲定期演奏会 みなとみらいシリーズ

公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

〒231-0004 神奈川県横浜市中区元浜町2-13

Tel: 045-226-5045 e-mail: info@kanaphil.or.jp

URL: <https://www.kanaphil.or.jp/>

# 16 コンドルズ 東京公演

ROCKSTAR 有限会社

助成金額 7,580 千円

## 活動概要

1996年、近藤良平を中心に結成されたダンスカンパニーコンドルズ。その運営を専門に扱う会社として2005年、ROCKSTAR 有限会社を設立。コンドルズは20年に渡り日本全国でツアー公演を開催し、結成20年の2016年には、NHKホール（東京）公演が即日完売し、追加公演を実現するなど、日本のコンテンポラリーダンス界を牽引する存在となっている。活動は日本に留まらず、これまでに招聘を受けて公演を行った国は約30カ国、ニューヨークタイムズ紙等でも絶賛されている。近年は次世代を担うダンサーや振付家の育成、若手カンパニーのサポート、市民参加舞台公演のプロデュースのほか、障害者向けや幼児向けの公演・ダンスフェスティバルの開催等に取り組み、踊ることの楽しさ、コンテンポラリーダンスの魅力一般社会に広めていくことに尽力している。主宰の近藤良平は2017年、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

2018年8月24日～26日に東京グローブ座（東京都新宿区）で実施した「コンドルズ 東京公演」では、「許容」をテーマに、コンテンポラリーダンスが持つ「開かれていること」「多様性があること」の意義を問い直した。



▲コンドルズ 撮影：HARU



▲東京公演（東京グローブ座） 撮影：HARU

## 助成を受けて

今回の東京公演では、「雑食性の高い日本文化の先鋭的アートであるコンテンポラリーダンス」というスタンスに立つことを明確に意識し、強いキャラクター性とユニークな身体を持つコンドルズならではの、「個」の存在感を存分に発揮した演出・振付を行いました。また「舞台芸術は、『照明、音響、美術、映像、観客、劇場空間との総合芸術』である」という原点に立ち返り、それらの要素と身体表現との巧みな融合が実現できたと自負しています。こうした公演活動をより充実させるため、また、文化芸術活動を通じた社会的貢献を進めるため、助成金を受けて活動にかかる予算を拡充した上で、全体的な質の向上を図ることにしました。その結果、照明・音響等演出効果のクオリティ向上が実現し、あらゆる面で「あと一歩欲しかったところ」を補って十分に質を高めることが可能となりました。

助成を受けた公演において、より幅広い客層に劇場に足を運んでもらい、あくまで社会活動の一環として、誰もが劇場を通じた文化芸術を享受できる環境を、公演という形で提供することは最重要事項だと考えています。それは幼児から高齢者、障害者、育児中の親、在日外国人等、多様な人々が集い、交流する場所としての舞台芸術作品を創造することで実現できます。採算至上主義になりがちな商業ベース公演ではすくい上げることのできない要素を細やかに拾い上げていくことが、助成を受けた公益性を必須とする公演を行う以上、不可欠だと考えます。

今後もコンテンポラリーダンス界の牽引役として活動を継続すると共に、若手カンパニーの育成も含め、この国の舞台芸術文化の多様性を堅持、発展させることに尽力していきます。

## ROCKSTAR 有限会社

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-16-15 竹美コーポレーション 303

Tel: 03-5272-0991 e-mail: katsu@condors.jp

URL: <http://www.condors.jp>

# 17 創立 70 周年記念公演 Vol.3 「どろろ」

有限会社 ひとみ座

助成金額 15,768 千円

## 活動概要

1948年に神奈川県鎌倉市で創立、現在は川崎市を拠点に活動を続けている人形劇団ひとみ座。全国の幼稚園から中学校で鑑賞会を行っているほか、「リア王」をはじめとするシェイクスピア作品、安部公房や泉鏡花の戯曲など、大人を対象にした人形劇も多く上演している。

2019年3月27日～31日、川崎市アートセンター・アルテリオ小劇場で上演された創立70周年記念公演「どろろ」は手塚治虫の同名傑作漫画が原作。48の妖魔に奪われた身体を取り戻す旅に出た百鬼丸と、泥棒の子供どろろとの旅路を描く。期間中、会場施設内の工房では、「ひょっこりひょうたん島」など10作品の劇人形展も併催された。



▲どろろ 撮影：古屋均

## 助成を受けて

国内の専門人形劇団による大半の公演が、幼稚園や小学校など観客が限定される環境と規模で実施されています。ゆえに、全国の専門人形劇団による公演数は過去5年間で1.2倍に増加していますが、人形劇そのものが社会に十分普及しているとはまだはいえず、そのイメージも小規模作品に限定されています。そこで私たちは、出演者31名という大規模な新作人形劇「どろろ」を創作し、人形劇に対する新たなイメージを広めようと考えました。これも助成金の年間活動支援があってこそ可能となったものです。

今回、手塚治虫の漫画と人形劇というジャンルを横断した創作により、多様な年代の観客を獲得でき、有料観客数の目標を達成しました。演出で強調した、「『個』が集団内の秩序に惑わされることなく、他の『個』を理解し、受容する」というテーマには多くの観客がアンケートでも触れてくださり、私たちの思いを伝えることができたこと確信しています。適格な演出家と美術家を起用し、デザインと操法に工夫を凝らした人形構造など、当該ジャンルを牽引するに値する質の高い作品制作を行うことができました。

舞台芸術の鑑賞という行為は、精神的に成熟した国民性の創造に繋がります。共生社会など豊かな社会を目指す我が国において、優れた作品を提供することは非常に公益性の高い事業と考えます。今後も対象年齢、表現内容や技法などあらゆる面で固着化せず、常に社会的ニーズを意識した多様な作品を創作していきます。特に、子供を対象とした作品では、すべての子供が文化芸術を享受する権利があること、全国規模での展開や料金の低廉化など、波及効果を最大化することを意識した企画制作を心がけていきます。今後も助成金を活用しながら、人形劇ジャンルの存在意義を広くアピールし、観客や社会に十分に還元できるよう、公益性の高い事業の継続に努めて参ります。



▲どろろ 撮影：古屋均

## 有限会社 ひとみ座

〒211-0035 神奈川県川崎市中原区井田 3-10-31

Tel: 044-777-2225 e-mail: puppet@hitomiza.jp

URL: <http://hitomiza.com/>

# 18 山本会別会

合同会社 大蔵流狂言山本事務所

助成金額 547千円

## 活動概要

大蔵流狂言山本家が、年2回の定期自主公演「山本会」の別会として行っている「大蔵流狂言山本会別会」。通常の狂言会より曲数を多くし、上質かつ多彩なタイプの狂言を上演することで、観客に狂言への理解を深めてもらう機会を提供している。

2018年4月30日、東京都渋谷区の国立能楽堂で開催された別会では、狂言4曲に加え、狂言一調『貝尽くし』、素囃子『神舞』を上演。狂言は稀曲『麻生』『若市』、習物曲『通円』といった普段の狂言会ではあまり鑑賞できない曲のほか、初心者や子供にも分かりやすい『鐘の音』を選曲。『貝尽くし』では太鼓方人間国宝の三島元太郎師を客演に迎え、山本東次郎との人間国宝共演を果たした。



▲狂言「若市」 撮影：神田桂明

## 助成を受けて

狂言の多様性を知っていただくために、また、能と比べて分かりやすいと誤解されがちな狂言の奥深さを理解していただくために、「別会」では通常の催しとは異なる珍しい曲を選んでいますが、選曲や曲数が予算に影響されてしまうのが悩みの種です。今回は助成金をプログラムの充実や囃子方への出演料に充てられ、全演目に謡を、『鐘の音』以外の演目には囃子を入れることができました。狂言は台詞としぐさの対話劇。今回は「狂言ミュージカル」とも言うべき番組構成で、新たな狂言の一面をお見せすることができました。

演者は普段、東京都や埼玉県の高校で狂言の講師を務めるなど、芸術分野を担う若手の育成に努めていますが、古典になじみのない若い世代や初心者が本物の狂言に気軽に触れられるような会にするには、学生料金の設定などチケット代を廉価にする必要があります。その意味でも助成金は非常に大きな力となっていますし、玉石混交と言える数多の公演の中で、初めて狂言をご覧になる方が催しを選ぶ際の基準として、「文化庁補助金の助成を得た団体」と認識していただけるのはありがたいことです。

アンケートでは、「囃子の入った演目が多く、華やかで楽しかった」「人間国宝の共演を廉価で観ることができ、贅沢だった」といった声を多数いただきました。日本の古典文化が令和の時代にも絶えることなく継承されていくためには、こうした公演に若い世代を中心とする新たな顧客をもっと呼び込むことが不可欠です。今回、上演時間の長さから当日券の購入をあきらめた方がいらっしまった反省点なども踏まえ、今後ともより洗練されたプログラムの作成、また、演者については一層の芸の研鑽に努めていかねばならないと強く思っています。



▲狂言「麻生」 撮影：前島写真店 前島吉裕

合同会社 大蔵流狂言山本事務所

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-55-9

Tel: 03-3381-2208

# 19 漫才大行進

一般社団法人 漫才協会

助成金額 12,439千円

## 活動概要

経験豊かなベテランから若手まで、幅広い世代の漫才師・芸人たちが連日集結し、客席に多種多様な芸を披露している「漫才大行進」。内海桂子、青空球児・好児、おぼん・こぼん、昭和こいる、ナイツらベテランの卓越した芸を生で見られる絶好の機会であるだけでなく、若手にとっては観客を前に漫才ができる貴重な鍛錬の場ともなっている。2018年度は東京のお笑いの中心地・浅草の東洋館で計223回（4月1日～翌年3月19日）、浅草演芸ホールで1回（12月30日）公演が行われた。



▲おせつときょうた

## 助成を受けて

若手育成のために出演者を増やしたことで、今年度の「漫才大行進」では1日平均24組もの芸人が舞台に立ちました。ただ、浮動的な入場料収入から出演料を安定的に確保することは難しく、そこに助成金を充てられたのは大変ありがたいことでした。限られた出演枠の中で、いかに出演者の魅力を際立たせ、多くの観客に笑いを届けられるか。昨年度から仲入り前後で若手～師匠クラスの芸が一通り楽しめる2部制を取り入れるなど、その香盤（番組）編成には難渋しますが、金銭面では概ね安定し、結果的に出演者・関係者が一丸となってより高いモチベーションで公演を継続できました。

近年では、本公演を契機に教育・福祉・環境分野から出演依頼を受けるようになり、周辺地域との繋がりが育っています。寄席まで足を運べない車椅子のお客様向けの「車いす de お笑いライブ!」、台東区の委託で小学生にリサイクルの仕組みを漫才で教える「環境・ごみ減量・リサイクル講演会」、高齢者の方に笑いで元気になってもらう同区の「笑って元気教室」。そうした新分野との関連性を見出すことは、演芸の広い普及とともに、新たな公益性も生んでいくのではないのでしょうか。

漫才を中心とした演芸の普及・継承を目指し、質の高い充実した公演を届けることが一般社会への還元につながる。私たちは考えています。そのためにも今後も若手世代の育成に力を注ぎ、より多くの活動の場を提供できるような仕組みを築いていきたいです。また、土日祝日のお客様にはアンケートと引き換えに500円割引券をお渡しするなど、これまででも動員に尽力してきましたが、テレビや雑誌などのメディアやSNSなど、あらゆる方向からの情報発信も検討しています。これからも助成を活用させていただき、本公演の開催を軸に、拠点の東京・浅草地域から全国へ向けて、広く東京漫才をアピールしていきたいと思っています。



▲青空球児・好児

## 一般社団法人 漫才協会

〒111-0034 東京都台東区雷門2-11-9 木具定ビル4階

e-mail: info@manzaikyokai.org URL: http://www.manzaikyokai.org

# 20 まち元気プロジェクト

公益財団法人 可児市文化芸術振興財団

助成金額 30,910 千円

## 活動概要

「まち元気プロジェクト」は、岐阜県の可児市文化創造センターを拠点に取り組む5年間のプロジェクト。「感動と希望を生み出す最高水準の舞台芸術」「人と人を繋げていく市民総活躍社会の実現」「生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティーネット」の3本の矢を軸として、文化芸術を用いた幅広い事業を行っている。

2018年度は計23事業を実施。地域拠点契約を結ぶ文学座の公演や新日本フィルハーモニー交響楽団によるコンサートをはじめ、著名な振付家を中心に市民参加型でダンス創作を行う「オーケストラで踊ろう!」、演出家・鹿目由紀氏の下、国籍によらず地域住民が共同で舞台を創り上げる「多文化共生プロジェクト2018」、小中学校でのクラシックコンサートや朗読会、障害の有無に関係なく音楽やダンスを楽しむ「みんなのディスコ」、親子ワークショップなど、内容はバラエティーに富んでいる。



▲オーケストラで踊ろう!



▲みんなのディスコ

## 助成を受けて

当劇場は一部の文化芸術愛好者だけでなく、市民全体に文化芸術の果実を届け、文化芸術の新しい価値を創出し、その認知を広げようと活動しています。今回、「まち元気プロジェクト」を採択いただき、鑑賞事業や新たな鑑賞者開発のみならず、それぞれ環境や立場が異なる市民、特に、地域で課題を抱える外国籍住民・ひとり親家庭・高齢者・障害者・子育て世代等に向けて、文化芸術を用いて、地域コミュニティにおける繋がりを深める事業にも取り組むことができました。

劇場単体で市民全てにアプローチすることは困難なため、国際交流協会や市民サポーター等、様々な機関が協力するコレクティブインパクトのアプローチを行っています。それにより、地域の社会課題の解決、コミュニティ形成など、地域に暮らす人に寄り添った事業が提供できています。助成を受けて社会包摂事業を多く実施してきた実績から、近年では、当劇場は単なる「鑑賞施設」ではなく、地域における「社会機関」として認知されるようになりました。市役所との協力体制も確立でき、社会的投資収益率（SROI）を用いた調査の協力なども行われています。

現在は、プロジェクトをより広く周知し、理解を深めていただき、能動的に劇場に関わる人を増やすことが一番の課題です。また、事業の主旨を理解し、ワークショップ等において、参加者や会場の雰囲気を感じ取り、すぐに適切な対応ができる、レベルの高い講師やスタッフの存在も欠かせません。助成金を有効に活用しながら、今後もプロジェクトの効果や理念を伝え、文化芸術の新しい価値をより広く強固なものとし、全国における先行事例として活動を続けていきたいと考えています。

## 公益財団法人 可児市文化芸術振興財団

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土 3433-139

Tel: 0574-60-3311 e-mail: info@kpac.or.jp

URL: <https://www.kpac.or.jp/>

# 21 共同制作オペラ モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」(新演出)

東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)

助成金額 44,634千円

## 活動概要

### 【共同する劇場・音楽堂等】

- オーバード・ホール(公益財団法人富山市民文化事業団)
- 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 熊本県立劇場(公益財団法人熊本県立劇場)

### 【共同する実演芸術団体】

- オーケストラアンサンブル金沢(公益財団法人石川県音楽文化振興事業団)
- 読売日本交響楽団(公益財団法人読売日本交響楽団)
- 九州交響楽団(公益財団法人九州交響楽団)

音楽制作の経験と実績のあるオーバード・ホール、東京芸術劇場、熊本県立劇場が共同し、日本でのオペラ経験が豊富な総監督・指揮の井上道義氏と、オペラ初演出であり、国内外で評価を得るダンサー・振付家の森山開次氏が協力し、人気オペラでモーツァルトの最高傑作のひとつでもある『ドン・ジョヴァンニ』を新演出にて制作した。総監督である井上氏が台本作・日本語訳を担当。

2019年1月20日オーバード・ホール、26・27日東京芸術劇場、2月3日熊本県立劇場にて、3都市4公演を行った。



▲ドン・ジョヴァンニ



▲ドン・ジョヴァンニ

## 助成を受けて

今回の共同制作では、モーツァルトの傑作「ドン・ジョヴァンニ」を取り上げ、我が国を代表するダンサー・振付家の一人である森山開次氏の演出と、総監督・井上道義氏による台本作・日本語訳のもと、慣例にとらわれない新たな視点に基づく、日本語上演によるオペラ制作に挑戦しました。

今回は、全面公募オーディションにより、実力のある若手中堅ソリストを積極的に起用しましたが、助成をいただいたことで、およそヶ月に渡る立ち稽古に参加できる環境を確保することができ、稽古・本番を通して、集中力のある、高品位な公演を実現することが可能となりました。このことにより、10年後の日本オペラ界を牽引するアーティスト人材につながる結果を生み出せたと自負しています。また、オペラとダンスの融合という試みには、準備段階から様々な苦労がありましたが、日本語上演によって作品の内容がダイレクトに聴衆に伝わり、「言葉の力」を最大限に感じられる稀有な機会を提供することもできたと考えています。

その他にも、今回聴覚障害者に向けた磁気ループの設置、外国人に向けた全編英語字幕による上演など、きめ細やかな対応が各劇場一律で実現でき、多くの障害者や外国人の来場に繋げることができました。また、地域の高校・大学生にモニター参加してもらい、これまで課題になっていた「若年層に対する高レベル作品の鑑賞機会の提供」に寄与できたことは、東京のみならず、富山、熊本といった地方都市に有意義な効果をもたらすことができました。

今後も各地域の制作能力、ノウハウの向上、劇場・ホール連携による情報ネットワークの整備により、オペラのみならずオーケストラや室内楽でも同様に展開させたいと考えています。

## 東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1

Tel: 03-5391-2111 URL: <https://www.geigeki.jp/>

# 22 ONEOR8 「ゼブラ」

あさひサンライズホール

助成金額 7,190千円

## 活動概要

1994年に開館したあさひサンライズホール（北海道士別市）では、全国のホール、会館とネットワークを構築しながらさまざまな公演を上演してきた。今回は中標津町総合文化会館（北海道中標津町）、宮古市民文化会館（岩手県宮古市）、一心寺シアター（大阪府大阪市）と連携し、小劇場系の若手劇団として質の高い作品づくりで知られる劇団 ONEOR8 の代表作『ゼブラ』ツアー公演を行った。田村孝裕作・演出による本作は、母親の死に向き合う四姉妹の姿を通して現代日本の家族のあり方を問い直す普遍的作品。2018年12月11日のあさひサンライズホールを皮切りに、23日の一心寺シアターまで、4会場5回公演を行った。田村氏は2018年1月から3月まで士別市あさひ地区に滞在し、同ホールにて市民劇「体験版 芝居で遊びましょ♪」シリーズの『ゼブラ（サンライズバージョン）』を演出するなど、市民との交流が深まっている。



▲ONEOR8 「ゼブラ」



▲ONEOR8 「ゼブラ」

## 助成を受けて

演劇作品は、東京を中心とする大都市で制作されることが多く地方で鑑賞する機会は極端に少ないのが現状です。劇場の地域事情や運営形態も異なり、今回のように北海道、東北、関西という遠隔地の劇場が連携することで、互いの特性や手法を参考にできました。

劇場の自主事業は、普遍的にどこでも実施されるべき内容のものがあるうえに、それぞれの地域性や歴史に裏付けられた特徴的なものも必要であると感じています。多様なアプローチから劇場のオリジナリティのある取り組みの一つとして試行錯誤を重ねるためにも、継続的で安定した助成制度は有効です。今回の助成によって、大都市での公演と同レベルの演出内容による上演が実現できました。また、今回、告知、宣伝の対象を広げたことや、作品のキーワードが「家族」であったことから、現代劇に興味を持つ層だけでなく、日頃舞台に興味を持たない層にも丁寧なアピールを行うことで新たな観客の動員につながり、立地の差によらず等しい鑑賞機会を提供することができました。

このようなツアー公演を成功させることで劇場運営のみならず、地域の活性化にも繋がり、文化芸術を通じて豊かな人生を過ごす市民が増える効果を得られます。質の高い作品の鑑賞と、活発な劇場運営を両輪として機能させ、劇場の独自性を打ち出しながらそれぞれの地域をより暮らしやすいものとしていくためにも、これからも助成金を継続的に活用させていただきたいと考えています。

## あさひサンライズホール

〒095-0401 北海道士別市朝日町中央 4038  
Tel: 0165-28-3146 e-mail: sunrise@plum.ocn.ne.jp  
URL: <http://sunrisehall.web.fc2.com/>  
<https://www.facebook.com/Asahisunrisehall>

# 23万引き家族

株式会社 フジテレビジョン

助成金額 22,000千円

## 活動概要

是枝裕和監督が日本社会の底辺に生きる人々と、家族の絆のあり方を描いた意欲作。社会問題を扱いながら、ひとつの家族を描いた本作は、これまで同局が製作してきた多くの商業的作品とは異なる挑戦的な作品となった。下町の一軒家に暮らす6人の家族が、ある事件をきっかけにバラバラとなり、彼らの抱える秘密が次第に明らかになってゆく――。

第71回カンヌ国際映画祭のコンペティション部門に正式出品され、日本人として21年ぶりとなる最高賞《パルムドール》を受賞。国内でも大きな注目を集めた結果、アート性の高い作品としては異例の全国330館以上という公開規模に拡大した。2017年12月より撮影開始、2018年4月16日に初号試写、5月13日にカンヌ国際映画祭にてワールドプレミア上映。国内では6月8日より劇場公開された。上映時間121分。

## 助成を受けて

ひとつの家族を通して、日雇い労働者、年金詐欺、JKビジネス、ネグレクトといった題材を扱った本作は、報道だけでは捉えられない社会問題を、鑑賞者がより主体的に感じられるような意欲作となりました。是枝監督の作家性が強い作品で、社会的・文化的に意義深いプロジェクトだったものの、多くのテレビ局主導映画とは異なり、宣伝・公開規模共に小規模となることが見込まれました。予算も制限される中、デジタルカメラでは再現できない表現のためにフィルムでの撮影を行うことや、異なる季節での撮影を行いたいという意向もあり、作品の品質を保つために貴振興会の助成を申請しました。助成金をいただいたことで必要な準備・体制を組むことができ、監督の意図を実現できた点も多く、本作は、カンヌ国際映画祭において《パルムドール》を受賞するに至りました。185以上の国と地域で公開されたほか、国外で65を超える映画賞を受賞する成果を収め、日本映画の質の高さを世界に知ってもらう機会に恵まれました。

また、本作に注目が集まったことを機に、是枝監督が劇場や学校に招かれる機会も増えました。例えば、監督によるティーチインでは作品の内容に留まらず、日本映画の歴史と未来や、海外と比較した制作システムについてなど闊達な質疑応答が行われ、日本映画産業の発展について考える機会が広く提供されたことは、本作がもたらした公益性のひとつと考えています。

今回のように社会問題に目を向けた題材や、監督の作家性を重視した作品などの製作を通して、これからも日本映画の多様性に寄与していきたいと思えます。今後も小規模作品や興行成績予測を立てることが難しい挑戦的な作品づくりに際し、ぜひ助成金を活用させていただきたいと考えています。



▲万引き家族 撮影風景 © 2018『万引き家族』製作委員会



▲万引き家族 撮影風景 © 2018『万引き家族』製作委員会

株式会社 フジテレビジョン

〒137-8088 東京都港区台場2-4-8

URL: <https://www.fujitv.co.jp/company/index.html>

# 24 夜明け

株式会社 バンダイナムコアーツ

助成金額 12,000 千円

## 活動概要

日本を代表する映画監督である是枝裕和（『誰も知らない』『そして父になる』）、西川美和（『ゆるる』）が所属する映像クリエイティブ集団「分福」が、満を持して世界に送り出す新人女性監督・広瀬奈々子のオリジナル脚本による監督デビュー作。

東日本大震災の年に社会人となり、卒業式は執り行われなかったという広瀬監督が、漠然と将来への不安を抱えた生活の中で本作の着想を得た物語となっている。過去や現実から目を背ける若者が初老の男と出会い、関係性を築いていく中で自分自身と向き合っていく。一方で、SNSの発達により、情報ひとつで他者の見え方が一変する現代社会の恐ろしさも織り込んだ。

2018年1月に撮影、同5月21日に初号試写。19年1月18日より全国約50館にて劇場公開。第23回釜山国際映画祭、ミンスク国際映画祭2018、第19回東京フィルメックスほか国内外映画祭のコンペティションなどに正式出品・上映された。上映時間113分。



▲夜明け

## 助成を受けて

本作で監督を務めた広瀬奈々子は、これまで、是枝裕和監督『そして父になる』『海街diary』『海よりもまだ深く』、西川美和監督『永い言い訳』などで監督助手を務めてきました。本作は、監督として一本立ちするデビュー作であり、弱冠30歳（製作開始時）の若い監督だからこそ表現できる「現代日本の若者像」を十分に映像に反映させつつ、海外にも広く通じるような高い完成度の映画作りを目指しました。

助成を受け、通常の映画製作と比べて、編集や仕上げ等にかかる製作費をより充実させることが可能になり、作品の質を大きく向上させることができました。これにより、クリエイティブな仕事を目指す全世界の若者に、若い女性監督の誕生という希望を提示するとともに、作中に描かれる若者像に共感する層と、彼らを取り囲む我々の社会全体とが、相互の理解を深めるための機会を提供することができました。さらに、バリアフリー音声ガイドや日本語字幕を作成し、ハンディキャップの有無や言語の違いを超えてより幅広く多くの方が作品を楽しめるようになりました。

これらの成果により、本作は多くの国内外映画祭コンペティションなどで正式出品・上映され、東京で行われた第19回東京フィルメックスコンペティション部門においてスペシャル・メンションを受賞するなど、高い評価を得ました。

今後も助成金を活用し、我々が生きる社会を深く見つめる作品を展開していきたいと思っております。



▲夜明け

## 株式会社 バンダイナムコアーツ

〒150-0013 渋谷区恵比寿 1-18-14 恵比寿ファーストスクエア

URL: <https://www.bandainamcoarts.co.jp/>

# 25 百年の蔵

株式会社 ヴィジュアルフォークロア

助成金額 6,990千円

## 活動概要

2018年、富山県魚津市で1918年に起きた「米騒動」から100年を機に、騒動の実相を伝えるため、地元ならではの伝承映画を製作。①米騒動の真実を伝える—騒動の発端となった魚津の米騒ぎは漁師の妻たちの陳情行動で暴動ではなかったことを、100年前の漁民の暮らしや精神風土など、当時の時代・社会的背景を踏まえて描く。②故郷の歴史を風化させず未来に伝える—なぜ騒動が魚津で起きたのか、なぜ全国に広がったのか、なぜ魚津では暴動にならなかったのかを、地元の目線で再検証する。以上2点を方針とし、地元の中小高校、大学などの教育機関や、市民をはじめ広く富山県内外でも上映される作品を目指した。

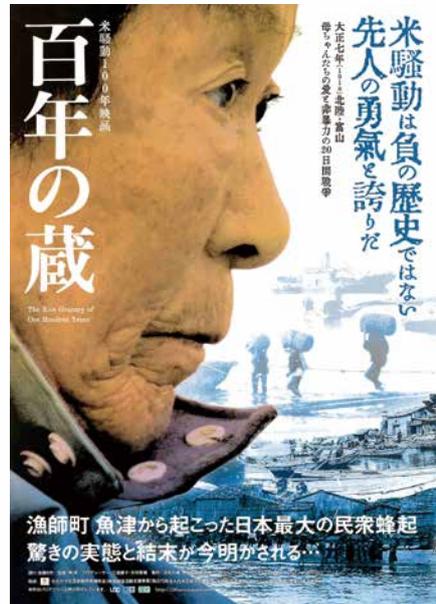
米騒動発端の現場となり、現在も魚津市の海岸にその姿を留める築100年を越える古い蔵を舞台に、当時の様子を想起、探求していく過程を描いている。2016年7月から2018年7月まで延べ80日間撮影。2018年9月5日に初号試写。同年12月、東京・ポレポレ東中野にて劇場公開、地元魚津市をはじめ全国で順次公開予定。上映時間99分。

## 助成を受けて

この映画では、今まで地元魚津で「負の歴史」として考えられてきた米騒動に光を当て、100年の節目に地元住民たちが、故郷の歴史と文化を再発見し、誇りを持つようになることを目指しました。米騒動=暴動という負のイメージで捉えられがちですが、魚津では米価の高騰に苦しむ漁師の妻たちが、家族を守りたい一心で行った直訴でした。暴力的な行為はなかったのです。むしろ、その行動が町議会を動かし、程なく貧民救済法に結実して町の約7割の人々が救われたことを、新資料や、証言などから明らかにすることができました。

文化芸術振興費補助金の助成を得たことで、現地の取材・撮影の充実や、作品の質の向上を図ることができたほか、社会的信用が高まり、北日本新聞、地元ケーブルテレビなどマスコミの多くから取り上げられることとなり、米騒動は負の歴史ではなく、郷土が誇るべき歴史であることを幅広く周知することができました。また、バリアフリー上映版（字幕と音声ガイド付き）を制作することで、視覚障害者への配慮が可能になったほか、高齢者からもとすれば聞き取りにくい話し言葉も文字で確かめられるので、映画の内容を理解しやすいと好評をいただきました。

本作は2018年9月、文部科学省選定を受けました。今後も富山県下の公民館、学校をはじめ公共機関での上演を地道に展開するとともに、米騒動の歴史を持つ全国各都市でも上映活動を展開していく予定です。



▲『百年の蔵』ポスター



▲早朝の魚津港

株式会社 ヴィジュアルフォークロア

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-12 オスカカテリーナ 3F

Tel: 03-3352-2291 e-mail: info@vfo.co.jp

URL: <http://www.vfo.co.jp/>

# 26 バースデー・ワンダーランド

株式会社 シグナル・エムディ

助成金額 20,000 千円

## 活動概要

主にファミリー向けアニメーションの企画・制作を手がけるシグナル・エムディが、人気作家・柏葉幸子が描くファンタジー『地下室からのふしぎな旅』をアニメーション映画化した作品。監督は、『河童クウと夏休み』『カラフル』『百日紅～Miss HOKUSAI～』など、国内外で高く評価される原恵一が担当した。

人気のない地下室に突然現れたスーツ姿の男。「となりの世界」からやって来たその男ヒポクラテスと弟子のピポに導かれ、アカネとチィおばさんを待ち受けるのは——？ 地下室から飛び込んだ「となりの世界」での不思議な出来事と、切ない別れを通してアカネの成長を描いている。声の出演には、主人公アカネを松岡茉優、母ミドリを麻生久美子、チィおばさんを杏、ヒポクラテスを市村正親と、実力派俳優陣を起用している。

2017年4月～19年2月まで絵コンテ、作画、ポストプロ作業、同年2月15日に初号試写。4月26日よりワーナー・ブラザース ジャパン 合同会社配給にて全国劇場公開。フランスの2019 アヌシー国際アニメーション映画祭長編コンペティション部門に正式出品された。上映時間 115 分。

## 助成を受けて

主人公アカネは、この物語を通して小さな一歩を踏み出す勇気を得ます。とても小さな成長物語です。アカネが抱えている悩みは今を生きている誰しもが経験のあることです。そんなアカネの心の揺れを繊細に描くことで、アカネと同じような場所にいてなかなか一歩を踏み出せない人たちの背中をそっと押す作品になれば、と企画した作品です。少年少女だけでなく大人をも魅了するストーリーと、普遍的なテーマを大切に活かしつつ、「大人も泣けるアニメ」の名手として知られる原恵一監督のオリジナル要素を加え、監督初の本格ファンタジー作品が誕生しました。

より多くの方の共感を呼ぶ作品の製作には、多くの経費がかかります。助成金を受けたことにより、他の作品制作より多くの人材を確保することが可能となり、より質の高い作品に仕上げることができました。その効果はマスコミ試写で反響を呼ぶことになり、SNSでも原監督ファン等による公開を待ち望む声が多数見られる等、期待度の高さを実感しました。

また、アヌシー国際アニメーション映画祭 2019 に出展・ノミネートされたことは、日本のアニメーション映画の質の高さを示すと共に、国を超えてより多くの方々に作品を届ける機会ともなりました。今後も必要に応じて助成金を活用させていただきながら、良い作品を世に送り出して行きたいと考えています。

## 株式会社 シグナル・エムディ

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-16-10 ニッセイ武蔵野ビル 2F  
Tel: 0422-38-5290 URL: <http://www.signal-md.co.jp>



▲バースデー・ワンダーランド  
©柏葉幸子・講談社/2019「バースデー・ワンダーランド」製作委員会



▲バースデー・ワンダーランド  
©柏葉幸子・講談社/2019「バースデー・ワンダーランド」製作委員会



# 芸術文化振興基金による助成

## 目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

## 助成対象活動

### ◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

### ◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

### ◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <https://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

## 目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動、国際的な実演芸術の公演活動、劇場・音楽堂等が主体となって行う実演芸術の創造発信等、並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

## 助成対象活動

### ◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）助成の形態には、活動毎に助成を行う公演事業支援と、複数の活動を一括して助成する年間活動支援があります。

助成金の額の算定方式の類型には、①芸術水準の向上を図るとともに、芸術団体の集客努力を促し、より多くの国民に優れた舞台芸術を提供するため、入場料収入に応じた支援を行う「入場料収入連動型」と、②芸術団体の芸術水準の向上となる公演の中でも、特に企画性の高い意欲的な芸術活動について、創造活動に対する支援を行う「創造活動経費支援型」があります。

### ◆国際芸術交流支援事業

- 海外公演
- 国際共同制作公演（海外公演・国内公演）
- 国際フェスティバル

### ◆劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
- 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
- 共同制作支援事業
- 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業

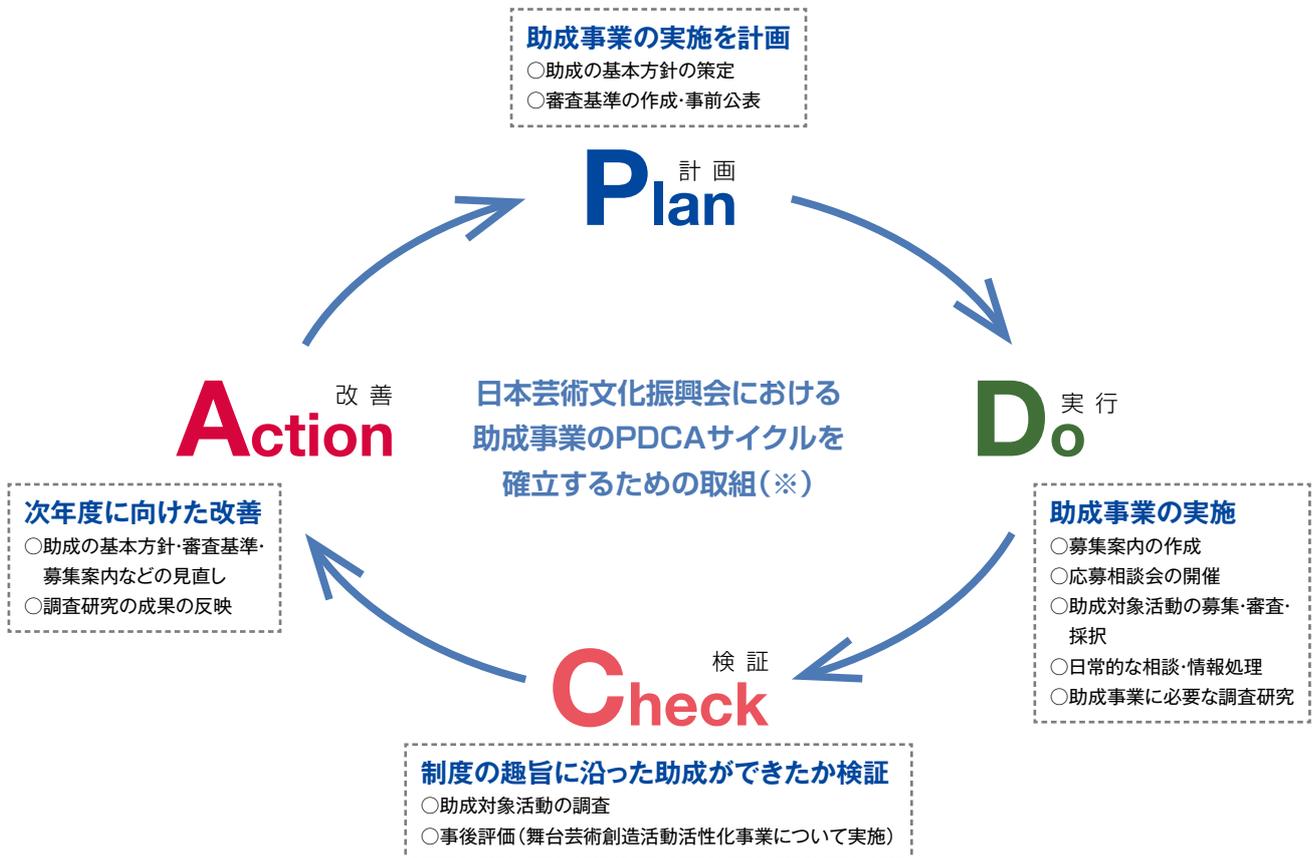
### ◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

※詳細は、ホームページ <https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

# 文化芸術活動に対する 助成システムの機能強化について

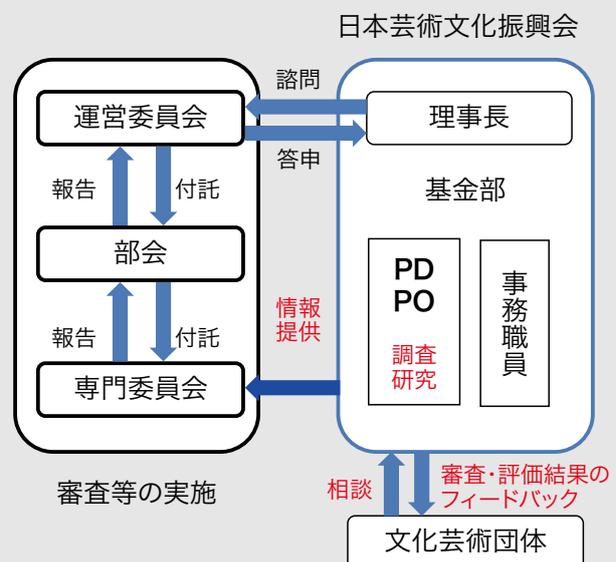
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の4段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

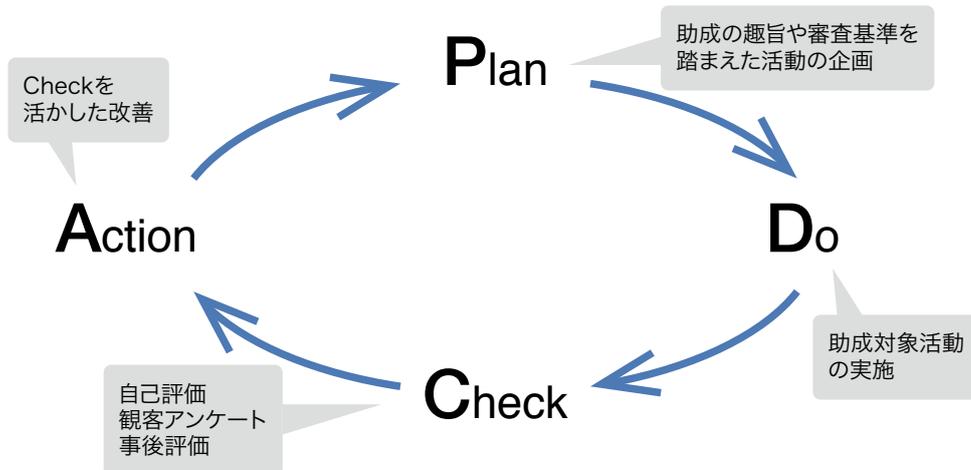
## 取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・POは、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。



## 助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていく必要があります。



## 文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成23年2月8日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第3次基本方針）では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくこととなります。

詳しくはHPをご覧ください→ <https://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

## 助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター（PD）・プログラムオフィサー（PO）制度	文化芸術に関する専門家であるPD・POを配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等についてPD・POに相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果はPD・POを通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発行日 \_\_\_\_\_  
令和元年 9 月 30 日

編集発行 \_\_\_\_\_  
独立行政法人  
日本芸術文化振興会 基金部  
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1  
☎ 03-3265-6302  
URL <https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html>

